サステナビリティ重点課題 進捗・実績（2026年10月現在）

※ 会社略称表記
SB:サッポロビール、PS:ポッカサッポロフード＆ビバレッジ、
SRE:サッポロ不動産開発、SLN:サッポロライオン、
SBL:スリーマン、SBC:ストーン・ブルーイング・カンパニー、
SVL:サッポロベトナム、PK:ポッカ、YSM:ヤスマ、FBS:フォーモストブルーシール

区分	最注力	重点課題	具体的取り組み	指標	目標設定会社	目標年	目標	実績
環境との調和	●	脱炭素社会の実現	・自社拠点・サプライチェーンにおける温室効果ガス排出削減	・温室効果ガス排出削減量 ※SBT認定済	サッポログループ	2030年	・スコープ1,2 温室効果ガス排出量を2022年比で42%削減	【2025年実績】 ・145.3千t（2022年比76.8%　23.2%削減）
					サッポログループ（SB,SBL,PS）		・スコープ3　温室効果ガス排出量を2022年比で25%削減	【2025年実績】 ・914.6千t(2022年比80.3%　19.7%削減） ＊排出量の減少には、調達構成の変化による影響などが含まれています。
							・FLAGスコープ1,3　温室効果ガス排出量を2022年比で31%削減	【2025年実績】 ・46.5千t(2022年比64.9%　35.1%削減） ＊排出量の減少には、調達構成の変化による影響などが含まれています。
			・循環型社会に対応した容器包装の実現 ・プラ資源のリデュース・リサイクル	・PETボトル製品 再生材使用率	PS	2030年	・国内販売PET製品 再生材利用率50%	【2025年実績】 15.0%
				・広告品類プラスチック削減量	SB	2030年	・化石燃料由来のワンウェイプラスチック製広告品類 国内原則廃止	【2025年実績】 ・88%削減
			・廃棄物・食品ロス削減	・食品再生化等実施率	SLN		・食品リサイクル法に定める基準実施率（＋1%/年） ※2023年度までに50%達成済	【2025年度（2025.4～2026.3）実績】 ・食品再生化等実施率 53.6%
				・生産拠点における廃棄物再資源化率	SB,PS		・国内生産拠点における廃棄物再資源化率100%	【2025年度（2025.4～2026.3）実績】 ・100%
			・水資源の保全	・用水原単位	SVL	2030年	・水の高リスク地域に該当するロンアン工場において、 －2030年までの水使用量原単位を2023年比10%削減 －洪水などの水リスクについて、適切に地域とコミュニケーションを図り、影響を最小化させるよう努める	【2025年実績】 ・ロンアン工場用水原単位：4.46m3/kL (2023年比8.98%削減)
				・水リスク管理	SB,SBL,SBC*3,SVL,PS,PK,YSM		・1回/3年以内による全生産拠点等の水リスクを調査 ・水の効率的使用	【2025年実績】 ・2024年にアキダクトによる全生産拠点等の水リスク調査を実施 ・水の高リスク地域の生産拠点(ロンアン工場)において排水法規制を上回る排水水質基準の遵守率100%
	●	自然共生社会の実現	・気候変動の緩和策・自然への影響の低減策	・大麦/麦芽の単位量あたりの窒素肥料の投入量、施肥最適化コミュニケーション	SB	2030年	・大麦/麦芽の単位量あたりの窒素肥料の投入量把握および施肥最適化コミュニケーション※2030年までに実施割合を100%にする。 ※ 当社のFLAG Scope1,3目標の共有、窒素系化学肥料や有機肥料の活用について、現地訪問などによる状況ヒアリング	【2025年実績】 ・67.6%
			・気候変動に対応した原料育種、自然と共生する拠点・まちづくり	・気候変動対応原料育種の進捗	SB	2030年	・気候変動対応可能な特性を持つ大麦・ホップの国内品種登録出願	【2025年実績】 ・2030年目標のロードマップに向けた重点課題に基づき、2025年に予定していた関連活動を実施。 （大麦） ・赤かび抵抗性品種候補を北海道の公的評価試験に供試し試験中 （ホップ） ・うどんこ病抵抗性品種候補の品種登録用調査実施中 【2026年進捗】 （大麦） ・赤かび抵抗性品種候補、札育13号をビール大麦育成系統合同比較試験（品比）に供試するとともに、次抵抗性品種候補を育種プログラム内で育成中 ・上記札育13号の品種登録用調査（固定度検定） ・穂発芽耐性関する評価材料を育成 （ホップ） ・うどんこ病抵抗性品種「フラノ2004B号」を品種登録出願した ・うどんこ病マーカーの遺伝型判別法の確立は進捗中。 ・いくつかのべと病マーカーについて、判別手順を確立した。
				・エリアブランド価値向上に資する持続可能なまちづくりの進捗	SRE*1		・保有物件価値向上と賑わいの創出 ・物件エリアのステークホルダーとのコミュニティ形成・強化・拡大 ・誰にでも優しい施設づくり	【2025年実績】 ・コミュニティ形成に資するイベント実施件数34件（恵比寿：23件、札幌：11件）
				・「地域創生事業」の進捗	SB		・自治体と連携した持続可能な地域創りとして、食材商談会における地域の食材サプライヤーと企業のマッチング等を実施 ・商談会における自治体、サプライヤー、バイヤー満足度75.0%以上	【2025年実績】 ・マッチング件数：全423商談　（前年524商談） ・関係者アンケート満足度　94%

社会との共栄	●	地域との共栄	・地域の価値向上 ・自社リソースを活用した地域課題解決	・日本のレモン生産の環境構築の進捗	PS		◆長期 ・日本のレモン栽培の豊かな土地と恵みを、未来の人々と地域に受け継ぐ ◆短期 ・毎年最低でも農地の最小単位である2,000㎡を増やす ・自社だけでなくパートナーとともに、栽培耕地の拡大 ・後継不在の農地引継ぎ、耕作放棄地の再生等の実施	【2025年実績】 ・耕作放棄地の整備・引き渡し： 1月～4月3,500㎡の整備と新規就農者へ引き渡し（契約農家化） ・新たな産地化： 25年9月農業法人設立し、来期以降での産地拡大準備進める
				・食品飲料事業に関する地域における学習プログラム（食育、出前授業、工場見学等）の実施件数	PS	2030年	・2021年比で10倍（400件規模）	【2025年実績】 ・223件（当初目標設定2021年比で6倍）
		健康価値の提供	・事業を通じた健康価値の提供	「ポッカレモン」ブランド集計 ［年間購入率（%）・年間購入数量（購入者あたりの本数）］	PS	2030年	・レモンが持つ健康機能の発信や用途・シーンの提案を通じて、レモンの総需要を拡大することで人々のWell-Beingに貢献する	【2025年実績】 ・年間購入率：15.63% ・年間購入数量：2.11
				・お客様の健康に焦点を当てた商品の展開状況	PK	2030年	・シンガポールとマレーシアで販売される商品に含まれる砂糖量を、平均値が4.5%以下になるように削減する（ポッカブランド製品のみ）	【2025年実績】 ・5.0% 【2026年進捗】 ・4.8%
				・健康価値提供に資する保有物件の認証取得状況	SRE*1		・健康価値提供に資する保有物件の認証取得	【2025年実績】 ・恵比寿ガーデンプレイスタワーにて「DBJ Green Building認証」 最高位★5取得
				・純アルコール量のラベル表示進捗	SB	2025年	・国産・国内販売の缶入りアルコール飲料、微アルコール飲料容器へ1本当たりの純アルコール量（g）を表示実施率100%	【2025年実績】 ・当該容器への1本当たりの純アルコール量（g）表示実施率100%。 【2026年進捗】 ・加盟団体における「純アルコール量」記載に関する自主基準が7/1に改訂・施行となり、新たな対象商品への対応を開始。
				・e-learning等による適正飲酒に関する啓発の社員受講率	SB,SLN		・国内全従業員へのe-learning等による啓発（1回／年以上） 100%参加	【2025年実績】 99.34%
	●	責任ある飲酒の推進	・適正飲酒の啓発	ノンアルコール、微アルコールや低アルコール製品に対する取組み強化	SB	2026年	・お客様の多様なニーズに応えるため、ノンアルコール、微アルコールや低アルコール製品において、選択肢を拡大していくことを目指す	【2025年実績】 ・新製品および既存製品の販売拡大に向けた取組みを実施 【2026年進捗】 ❶国内 ・SUPER STARを26年2月近畿圏限定にて販売後、6月にEC業態限定にて全国発売。 ・IPA COLAを自社D2Cにて3月テスト販売実施。 ❷海外 北米を中心に拡大するノンアル・低アル需要への対応を推進。 ・米国：「Sapporo Premium Non-Alcoholic」の市場展開を加速し、試飲・SNS・店頭販促を通じた認知拡大を実施した。 ・カナダ：「Sapporo Premium 0.0」の販売拡大と将来的な製造キャパシティ増強の検討を進めるとともに、APAC・欧州エリアでも継続的な市場機会探索を実施した。
					SLN			【2025年実績】 ・「飲み放題」メニュー選択者のアルコール摂取量調査を実施 ・YB銀座コリドー街店において、SB社の共催で適正飲酒セミナーを開催 【2026年進捗】 ・「適正飲酒」に関するメッセージ発信について、下期の展開に向けて準備中。
				適正飲酒セミナーの満足度	SB	2027年	・お客様に適正な飲酒の情報を提供し、啓発活動を進めることで、アルコールの有害な摂取を防ぎ、社会に貢献する ※セミナー後の満足度アンケート（５段階評価）にて2027年までに４以上	【2025年実績】 ・2025年累計セミナー満足度（5段階評価）スコア4.5 【2026年進捗】 ・1-6月累計セミナー満足度（5段階評価）スコア4.6
				・飲食店におけるアルコールの誤飲発生件数	SLN		・0件	【2025年実績】 ・誤飲事故1件(2025年2月) 【2026年進捗】 ・店舗におけるアルコール誤飲発生0件 ・毎月15日を「誤飲防止の日」として社内注意喚起を継続
				・飲食店メニュー・POP類へ20歳未満飲酒防止メッセージの表示率	SLN		・100%	【2026年進捗】 ・飲食店メニュー・POP類へ20歳未満飲酒防止メッセージの表示率100%
					SB*2,PS, SRE*1,SLN		・ワークエンゲージメント(※) 54以上 ※ストレスチェック・従業員意識調査による指標＜偏差値＞	【2025年実績】 ・ワークエンゲージメント54.3 【2026年実績】 ワークエンゲージメント54.4

人財の活躍	●	多様な人財の活躍	・ダイバーシティ、エクイティ＆インクルージョン(DE&I)の推進	・多様な価値観、新しい働き方に合わせた制度・環境の整備状況	SBL	2026年	・DE&I研修を受けた従業員の割合　100%	【2025年実績】 81% 【2026年進捗】 82%
							・コンシャス・インクルージョン研修を受講した雇用リーダーの割合：100%	【2025年実績】 81% 【2026年進捗】 80%
					SVL		・DE&I理解度　6.0点(※)	【2025年実績】 ・6.45点
							・経営陣の中のローカル社員人数　2名	【2025年実績】 ・経営陣の中のローカル社員人数　1名 ・経営人材研修を７月・８月に実施。 ・マネジャー職参加の割合：１００%
							・組織文化調査　6.00点(※) ※SVL社実施の「組織文化調査」による指標（7点満点中）。	【2025年実績】 ・6.39点
					PK		・エンゲージメント(※）80% ※PK社実施の「従業員調査」による指標（ベンチマーク76%）。	【2025年実績】 ・76%
				・女性活躍推進の進捗状況	SB*²,PS, SRE*¹,SLN	2026年	・女性取締役比率12%以上、女性管理職比率12%以上	【2025年実績】 ※5社合計　2025年12月末現在 ・女性取締役比率17.2%（SH単体18.2%） ・女性管理職比率10.8 % 【2026年実績】 ※主要3社合計　2026年6月末現在 ・女性取締役比率20.0%（SB単体36.4%） ・女性管理職比率　9.8%
					SB*²	2030年	・女性取締役比率30%以上	
					SB*²,PS, SRE*¹,SLN		・女性管理職比率20%以上	
			・成長と生産性向上に向けた人的資本投資	・未来価値創造に向けた挑戦的な風土醸成の進捗度合い	SB*²,PS, SRE*¹,SLN	2026年	・統合調査「未来価値創造に向けた挑戦」(※)3.0以上 ※ストレスチェック・従業員意識調査によるサッポログループ独自の調査指標　＜1.0～4.0で数値化＞。	【2025年調査結果】 ・2.7 【2026年調査結果】 ・2.7
				・積極投資による人財育成（経営人財／グローバル中核人財／DX・IT基幹人財）の進捗状況	SB*²,PS, SRE*¹,SLN	2026年	・経営人財後継者の充足	【2026年進捗】 ・事業会社にて経営者育成会議、全社での経営人財戦略会議を実施し、計画的に経営人財の育成を推進。
							・グローバル中核人財100名	【2026年進捗】 ・グローバル中核人財:常時100名以上プールしている。
							・DX・IT基幹人財200名	【2026年進捗】 ・DX・IT基幹人財:200名の育成完了。
				・心身の健康の良化による生産性向上の度合い	SB*²,PS, SRE*¹,SLN	2026年	・プレゼンティーイズム損失率(※）33.4%以下 ※ストレスチェック・従業員意識調査による指標	【2025年調査結果】 ※SH＋４事業会社 ・プレゼンティーズム損失率　33.5% 【2026年調査結果】 ※主要3会社 ・プレゼンティーズム損失率　33.9%
			・サプライチェーンにおける人権尊重	・サステナビリティ調達ガイドラインの遵守率	SB,SBL, SBC*³,SVL, PS,PK,YSM, FBS,SLN		・「調達基本方針」及び「サステナビリティ調達ガイドライン」の働きかけ及び浸透策の実施。	【2026年進捗】 ・新規サプライヤーに対し、方針・ガイドラインの周知および同意書取得を推進中。 ・各社対象サプライヤーに対し、サステナビリティ調達アンケートを7月より実施中。
					SB,PS		・主要調達先のサステナビリティ調達ガイドライン 遵守率100%	【2025年実績】 遵守率100%
				・森林破壊を防止したサプライチェーン構築の確認状況	サッポログループ		・高リスク品目 (1) について森林破壊のない調達になっていることの確認できるスキーム (2) の確立・実行 (1)牛肉、パーム油、大豆、ココア、木材・木質繊維 (2)サプライヤーに対する当社方針の説明、 アンケート等を通じた方針の有無や取組み確認、 必要に応じた是正の働きかけ	【2025年実績】 ・「サステナビリティ調達アンケート」により、優先取組み品目（牛肉、パーム油）の対象サプライヤーの森林破壊防止に関する取り組みを確認した。 ・現状問題となる事象は確認していない。 【2026年進捗】 ・各社対象プライヤーに対する、サステナビリティ調達アンケートを7月より実施中。 ・FLAGガイダンスv1.2を踏まえた取組計画を検討中。

持続可能なサプライチェーン構築	・サプライチェーンにおける人権尊重 ・サプライチェーンにおける環境負荷低減 ・安定調達	・人権DDプロセスの進行状況	SB,SBL, SBC*3,SVL, PS,PK,YSM, FBS,SLN		・サプライチェーンの人権尊重を確認できるスキーム（※）の確立・実行。 （主要原料と高リスク原料から優先実施） ※①各原料に関するサプライチェーンの一覧化 ②アンケート等による日常活動確認 ③必要に応じた状況調査等 ④必要に応じた是正の確認	【2025年実績】 ・サプライチェーンにおける人権尊重の確認スキームの整備と運用を進めた。 ・各社において主要原料・高リスク原料のサプライチェーン把握を進め、2025年は SAS 対象サプライヤーにおける人権関連の状況把握に向けた取り組みを進めた。 ・GCNJ 共通SAQ により、人権・労働・サプライチェーンに関する取組状況を確認し、必要に応じて状況確認や対話を行った。 ・重大な人権関連事案は確認されていない。次年度も継続して取り組む。 【2026年進捗】 ・各社対象サプライヤーへのサステナビリティ調達アンケートを実施中。 ・Sedex環境SAQ活用によるアンケート運用の効率化を推進。
			SB,PS	2025年	・主要原料および高リスク原料について、人権尊重された調達になっていることの確認を実施	【2025年実績】 ・主要原料および高リスク原料の調査を進め、把握不足を補うデスク調査を実施。 次年度も継続予定。 ・Sedex影響評価を活用した改善活動を開始。 ・対象原料について、Tier 2 以降の把握・確認を順次拡大中。
安全な製品・施設の提供	・食品安全	・食品安全保証体制の運用、継続的改善 ・重篤な食品事故の発生件数	SB,SBL, SBC*3,SVL, PS,PK,FBS, SLN		・食品安全保証体制への、お客様をはじめとしたステークホルダー（社内を含む）の声の反映。 ・重篤な食品事故の発生抑制	【2025年実績】 ・サッポログループ品質保証体系の中で、「GFSIベンチマーク規格に準じた品質保証体制」の考え方を整理、サッポログループの食品安全保証体制の基盤を構築した。また、予防型品質保証を達成していることの指標を定めた。 ・重篤な食品事故は発生なし 【2026年進捗】 ・サッポログループ品質保証体系に基づき、GFSIベンチマーク規格に準じた品質保証体制の構築が計画通り順調に進捗。 ・グループ各社の重大トラブル数と内容、ご指摘数と内容をモニタリングし、改善を促す仕組みを運用。 ・重篤な食品事故は発生なし。
	・安全な施設づくり	・施設安全への取組み状況	SRE*1		・保有物件における適切な非常用電源の確保 ・保有物件における耐震性能の確実な確保 ・有事対応計画に関する定期的な見直しと訓練の遂行	【2025年実績】 ・計画通り実施

***1目標設定会社SREの項目については、2025年度末にて取組みを終了し、【2025年度実績】を開示しています（2026年9月）**
***2目標設定会社SHの項目については、2026年下期より、目標設定会社をSBに更新しています（2026年9月）**
***3SAS→SBCに表記を変更しました（2026年9月）**